

第1回推進地域連携協議会の概要

- 1 日時 令和元年7月9日（火） 9：30～12：30
2 場所 旭川市立朝日小学校 図書室
3 内容



- (1) 研究経過、成果・課題及び本日の授業の概要説明
（別紙 スライド綴参照）
(2) 協議「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善について」
ア これまでの成果・課題等

【旭川地区・中央中】

単元マップ、思考アクティブ化ポイントを明確にした指導案作成に取り組んでいる。単元マップと指導案とのリンクや、生徒の思考の流れを大事にしている。

基本となる問題解決の学習過程のキーワードについては、マグネットシートで作成して全教師が全教科で活用している。振り返りや話し合いは、視点を明確にし、学びの自覚化を図っている。

【旭川地区・知新小】

単元デザインシートを活用して、振り返りに「算数作文」を取り入れ、課題の言葉を入れたり、授業のキーワードを入れたりすることを意識させている。児童が、学んだことを整理し、学ぶことに対して、「主体性」をもって取り組むことができる。

【小樽地区・菁園中】

「学びの自覚化」を、研究テーマとして本年度も取り組んでいる。教師が、生徒の学びが深められたと想着いても、生徒が同じ思いかどうかはわからない。

「単元デザイン」は、教師の指導しやすい順ではなく、生徒の思考で単元を貫く問いをつくる。パフォーマンスシートや単元計画を児童と作る。「まとめ・振り返りにかかわる発問」視点を与える。今日の計算のポイントはどんなことかなど、生徒に視点をもたせ自由に書かせたい。ペーパーテストの設問を工夫し、公式だけを覚えていけばよいのではなく、主体性を育む問題づくりをしていく。

【帯広地区・柏小】

国語を窓口にした単元をデザインした授業づくり。児童が学びをマネジメントしていくために、「できる。わかる。やりたい。」という気持ちを実感させていく。

児童が、主体的に学んでいる姿を、教師によって捉え方に違いが出ないように、発問や課題の工夫など揃え、一見して、何もしていないように見える児童の見取りに力を入れる。

イ 本事業の推進に向けた指導・助言

【北海道教育大学旭川校・山中准教授】

- ・評価の拠り所は指導要領である。1単位時間で評価ではなく、まとまりで評価する。
- ・「学びに向かう力」は、人間性の評価である。自らの学びを「調整」しようとしているか学びの自覚化を図るものである。
- ・内容のまとまりごとに評価の観点が示されている。
- ・「まとめ」は学習内容、「振り返り」は学習方法も含めた児童が記述するものである。

- ・本時の目標が、「知識・技能」であれば、習得が主となるので「まとめ」を書かせる必要がある。
- ・「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が土台にあって、「指導と評価の一体化」と「振り返りの充実」がある。

【小樽市教育委員会】

- ・昨年の9月2日の「学力向上実践交流会」では、単元毎に身に付けさせたい資質・能力やゴールイメージをもつこと、ゴールから逆算して手立てや課題を考えること、児童が、学習を自分事として捉えること、児童の姿で研修を進めることなどを確認することができた。

【旭川市教育委員会】

- ・「主体的・対話的で深い学び」に向かって、「なぜ、この学習をするのか。」手立ての吟味を行う必要がある。
- ・育成を目指す資質・能力や、目標とゴール、問題と課題、学びの自覚化（評価）などについて、再確認して周知していく必要がある。

ウ 本プロジェクトの成果の普及について

【上川教育研修センター】

- ・道内の各学校に対して、分かりやすい言葉で言い換えていく。全く新しいものではなく、これまでの研究で大事なところを伝え、できるところや理解できているところから、自校の授業改善に取り入れていけるよう広報の仕方を工夫して欲しい。

【道立教育研究所企画・研修部】

- ・授業改善を広く発表していただき、学校に分かりやすく伝えていくことが大切です。道研の各講座においても、取組の成果を活用してまいります。

【学校教育局義務教育課】

- ・学習のゴールから授業を考えることもできます。今後の取組に期待しております。